

コミュニティスクールだより

令和7年度 第3号

氷空のかぜ

そお小学校学校運営協議会
(事務局 そお小学校)
電話 85-0207

夢への一步と挑戦の心

ようこそ先輩! 御そお

新宮 (岡山県在住) 藤中 宏充

この度、母校であるそお小学校にて「ようこそ先輩」の講師を務めさせていただきました。1989年に卒業した私にとって、懐かしい校舎(当時は木造校舎)で後輩たちと過ごした時間は、何物にも代えがたい貴重なひとときとなりました。

授業では、50ccの原付バイクで挑んだアメリカ大陸縦断の旅についてお話ししました。カナダからチリまで約2万キロ、特に標高5000mを超えるアンデス山脈では、酸素不足でエンジン出力が落ち、走る速度は犬よりも遅くなるほどでした。「最も旅に向かないバイク」と言えるスクーターでの挑戦は、決して楽なものではありませんでした。しかし、この「誰にでもできるけれど、誰もやっていないこと」を成し遂げた経験は、私の人生において大きな自信となりました。こうしたお話を通じて、「まずはやってみる」という一歩踏み出す勇気の大切さが、後輩たちにも伝わっているとうれしいです。



また、日本選手権に10度出場したカーリングについても触れ、冬季五輪を前にその魅力を紹介しました。氷上の熱い駆け引きや、仲間と助け合う心の重要性は、スポーツも冒険も同じです。氷の上で正確にストーンを放つには強い体幹が不可欠で、それは幼少期に祖生の山や川、田んぼを駆け回って遊ぶ中で自然と培われたものだと感じています。故郷での豊かな経験が、今の自分を支えてくれているのです。

真剣な眼差しで話を聞き、元気に質問してくれる後輩たちの姿に、私自身が大きな元気をいただきました。皆さんの前には無限の可能性が広がっています。失敗を恐れず、自分だけの「大きな冒険」を始めてくれることを心から願っています。

祖生村の古地図(絵図)を知ろう! ~「そおね、あのね」の時間

西光寺 河野 順司



2月3日(火)午後、そお小学校5・6年生に、天保年間に岩国藩絵図方藤村清氏が筆写したもので、2025年に複写した「祖生村の古地図(絵図)」を紹介しました。岩国藩には各村の絵図あり、村境についての境目のことが細かく書き込まれています。

絵図の特徴として、「河川は現在の地図とほとんど変わらない」「山の表現は高さを示すことができないが、方角はしっかりしている」等が挙げられます。山の一つ一つに名前が書

き込んであり、小さな川や浴、小字も記載された貴重な歴史資料です。

児童の皆さんには、「落合の島田川の流は蛇行していて、そお小学校から北側の山に沿って流れ、一本杉に繋がっていた」ということ紹介しました。今では考えられないような変化です。また、「昔の祖生の人々は高照寺山を長宝寺さん(山)と呼んでいて、明治になり、現在の高照寺山に呼び名が決まった」ということにも触れました。

いつも見慣れている川や山にも「時という流れ」の中で共に生き抜いてきた歴史があることを学んでもらい、感じてもらった一日でした。

学校ボランティア活動を通して

【丸つけ先生に関わって】

学校ボランティア活動で丸つけ先生に参加しています。

毎週火曜日の朝、時間は15分間ですが、目を輝かせ、生き生きとプリントに取り組む子供たちに出会うと、自分にとってもとてもよい一日のスタートができる気がしています。

1月20日(火)は、丸つけ先生の時間にさわやか朝会で1年生の発表がありました。

音読、回文、早口ことばを一人ひとりが落ち着いて大きな声で発表しました。昨年、そお保育園のピクニック会で一緒に遊んだ時の子供たちであり、あどけない顔を思い出し、一年間の成長の素晴らしさに、感激しました。

また、発表後の上級生の感想も一年生のがんばりを褒めて、優しく思いやる気持ちであふれていました。

そお小の子供たちは少人数なので、一人ひとりにそれぞれの役割があり、すごく存在感があります。この小学校生活のすばらしい体験は、これから生きていく上での宝物となることでしょう。

西中 霜川 知津恵



【月に一度の読み聞かせ】

おはなし会を行っている私が言うのもなんですが、実は私自身、子どもの頃は本が好きではありませんでした。しかし、大人になり、言葉に触れることや本から得られる学びの大切さを実感するようになりました。

だからこそ、おはなし会をするにあたり、子供たちには今のうちから本に親しみ、読むことの楽しさを知ってほしいという思いが強くなります。一か月に1回の20分という限られた時間ですが、学年や成長に合わせて「楽しかった」と感じてもらえる本選びを一番に心がけています。たまに、私が思っている反応ではないことも、それ以上の反応なこともあります。他のおはなし会の方に比べ、まだまだ未熟ではありますが、絵本を通して、子供たちと楽しい時間を共有できていることは、私自身にとって毎回貴重な経験です。これからも、子供たちが少しでも本を好きになるきっかけとなるよう、私なりに試行錯誤しながらおはなし会を続けていきたいと思ひます。

下東 齊藤 珠美



《編集後記》

早いもので令和7年度も終わろうとしています。「氷室のかぜ」第3号も皆様のご協力のおかげで無事発行することができました。一年間の様々な行事をとおして私たちもたくさんの刺激を受けました。そお小学校の素晴らしさを改めて感じております。卒業生のこれからのご活躍をお祈りしています。

氷室のかぜ 編集部一同